

こがねっとレポート

2023.4.24 発行
発行：小金井・生活者ネットワーク
発行責任者：田頭祐子

no. 150

小金井・生活者ネットワーク

検索

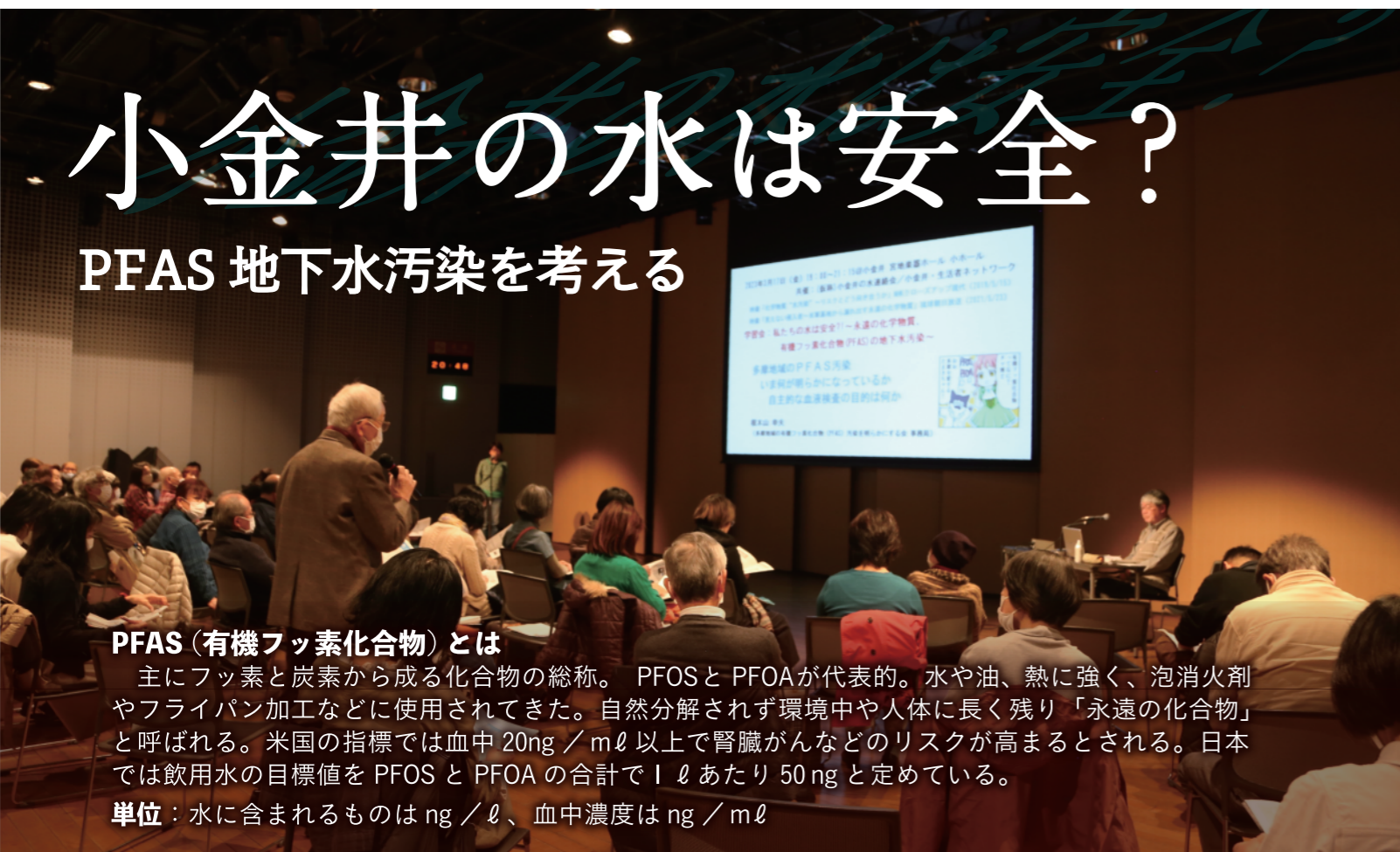
政治は
あなたの暮らしを
良くする道具です

日々の暮らしからの
声と市政をつなぐ、
あなたの声をお寄せください。

小金井・生活者ネットワーク

小金井の水は安全？

PFAS 地下水汚染を考える



PFAS (有機フッ素化合物) とは

主にフッ素と炭素から成る化合物の総称。PFOSとPFOAが代表的。水や油、熱に強く、泡消火剤やフライパン加工などに使用されてきた。自然分解されず環境中や人体に長く残り「永遠の化合物」と呼ばれる。米国の指標では血中20ng/ml以上で腎臓がんなどのリスクが高まるとされる。日本では飲用水の目標値をPFOSとPFOAの合計で1ℓあたり50ngと定めている。

単位：水に含まれるものはng/ℓ、血中濃度はng/ml

「PFASは加熱したら無くなるのか」「風呂で皮膚から吸収するのか」「浄水器を使ったほうがいいか」※：3月17日に宮地楽器ホールで開催された有機フッ素化合物(PFAS)地下水汚染の学習会「私たちの水は安全? (主催：小金井の水連絡会、小金井・生活者ネットワーク、環境NPOエコメッセ小金井)」の質疑応答で、参加者から水の取り扱いに関する質問が相次ぎました。都は多摩地域の水道水源のPFAS検査結果をホームページで公開しており、暫定目標値を下回っているため問題無いとした上で「ご安心ください」と呼びかけています。その「安心」の根拠である基準値は、新聞報道で汚染が判明した2020年に米国の基準値を元に国が暫定的に決めた数値であり、科学的根拠が十分であるとは言えません。※加熱しても変化しない。※心配するほどの濃度ではないと思われる(多摩地域のPFAS汚染を明らかにする会 根本山幸夫さん) ※活性炭使用なら簡易的でも効果。高額なものが必要なし(2023年4月7日東京新聞)(2面に続く)

身近に迫る水の汚染

150号目次

小金井の水は安全か PFAS 地下汚染 1-3面

基準値をどう捉えるか
米国と日本の比較
多摩地域の汚染状況
水道水以外の水道は
市議会では

子どもたちに和食の
楽しさを伝える
(市民の目) —3面

地方自治と子ども施策
—4面



小金井・生活者ネットワーク
〒184-0013

小金井市前原町 3-40-1
小金井スカイコーポラス 311-A
tel/fax.042-387-1068

E-mail:koganei@seikatsusha.net
HP http://koganei.seikatsusha.net

生活者ネットワークは、都内34の自治体があり、1人の都議会議員と41人の区・市議会議員を持つ地域政党です。「政治は生活を豊かにする道具」と考え、身近な問題を解決するために、政策をつくり、議会に提案しています。

生活者ネットワーク

3つのルール

- 1. 議員はローテーション**
議員を職業化・特権化せず、交代しながら参加の輪を広げます。交代後は、地域の活動にその経験を活かします。
- 2. 議員報酬は市民の活動資金に**
議員報酬は、調査活動や学習会など市民の活動資金として使います。お金の流れは、公開しています。
- 3. 選挙はカンパとボランティアで**
選挙は政治に参加する入口です。カンパとボランティアで選挙を行います。

2002年から毎年、全国各地で開催されている「地方自治と子ども施策 全国自治体シンポジウム」は、「子どもの権利条約」の研究者たちが条例作りと子どもにやさしいまちづくりを進めようと、各自治体の職員などと共に企画開催してきました。昨年度は2月11、12日に明石市で行われました。記念すべき20回目となる2023年度は小金井市で開催されることになりました。小金井市は昨年9月に「子どもオンブズパーソン」を発足させ、それがこの開催の大きな後押しになったと思われます。

まずは「小金井市子どもの権利に関する条例」の周知が広がること。そして「子どもがまん中の子どもにやさしいまちづくり」が進むことです。全国からその実践に関わる市民、研究者、自治体職員たちが集まるので、活発な情報、意見交換があり、関係者同士のネットワークも生まれます。明石市のシンポジウムでは一日目に基調講演などがあり、2日目は①子どもの相談・救済、②子どもの虐待防止、③子どもの居場所、④子ども参加、⑤子ども計画、⑥子ども条例と、多彩な分科会が持たれました。

分科会は40人規模で、行政職員やNPO団体、市民などからの取り組み報告と研究者からのコメント、参加者同士の意見交換がありました。この2日間を通して、自分のまちの子ども施策の課題に気が付き、行政もNPOも、それぞれの目標が見えてきます。

このシンポには延べ7〜8回参加しましたが、近年感じることは、「子どもの参加(子どもの権利)」が守られ育った子どもは、大人になってもまちやコミュニティに対する参加意欲が高いということです。幼児期に充分遊んだ子どもは非認知能力※1が高いとも言われます。子ども時代の自由な遊びは子どもの能力だけでなく人権感覚をも養うので、「子どもの最善の利益を



▲明石市のシンポジウムでの報告資料(奈良市のHPより.jpg)

※1：積極性や粘り強さ、リーダーシップやモチベーションの高さといった数値では図りにくい能力。
※2：発足式で岸田総理は、「子どもの意見を政策に反映させていきたい」と強調した。

子どもが真ん中のまちづくりは、
全ての人が幸せなまちづくり

第20回目は小金井市で

2022 明石
へ参加して思う事

どんなことが期待できるの？

子どもに優しいまちは
すべての人に優しいまちは

優先する「まちは、誰にとっても
優しいまちなります。